



### ～今月の研修生をご紹介致します～

前列左：岡本 武先生  
(海上自衛隊潜水医学実験隊)



前列左：川上 佳夫先生  
(福島医科大学皮膚科)



### ～新しい職員をご紹介致します～

事務職員：佐藤 尚子  
Shoko Sato



どうぞよろしくお願いいたします。

## 札幌皮膚病理研究所の4年間

所長 木村鉄宣

### 1. はじめに

札幌皮膚病理研究所を開設したのは2001年5月でした。フルタイムで皮膚病理診断に従事するという日本で初めての取り組みに対して、沢山の励ましの言葉を頂きました。それとともに、果たして皮膚病理診断が職業として成立するのか、もっと端的にいうと「食べていけるのか?」、と心配もして頂きました。あれから4年間が経過しましたので、この間の私たちの活動を報告させて頂きます。

### 2. 札幌皮膚病理研究所開設の目的

札幌皮膚病理研究所開設の目的は  
A. 正確で診療の役に立つ病理報告書を作成するとともに、臨床医のよきパートナーになる  
B. 医師に皮膚病理研修の機会を提供する  
C. 皮膚科学や皮膚病理学の進歩に貢献する でした。  
A. 臨床医と患者にとって皮膚生検は皮膚疾患の診断と治療に関係する重要な検査です。生検をうける患者の不安と負担を考え、また生検をする決断をした臨床医の気持ちを考え、病理標本から最大限の情報を入手し、もっとも的確にその所見を解釈して正確な病理診断をつけることが私たちの目的です。皮膚病理検査は検査とはいっても、診断に適した標本作製するところから病理診断にいたるまで、血液や尿の検査とは違い、医療行為そのも

のです。同じ生検検体であっても、病理検査会社や診断医によって違った病理診断がされる可能性があること、そして病理診断のために臨床医との意見交換が必要な場合もあることを指摘しておきたいと思えます。

B. 従来、皮膚病理診断や皮膚病理学に専門性をもつための勉強は外国とくに米国でなければできませんでした。皮膚病理の研修には、多くの症例数と指導医が必要です。私が勤務医時代に経験した症例数は、2000年が最高で年4千件でした。1985年に私が研修を受けたニューヨーク大学医療センター皮膚病理部門(Ackerman教授)では、年7万件くらいでした。沢山の症例を経験し、指導医から直接皮膚病理診断の技術や技能を発展させるための研修を受けることのできる環境を日本にすることが目的でした。

C. 私たちの経験に基づいた新しい発見や考え方を学会発表、医学論文、著書そしてセミナーを通じて国内や国外に発信することは、自分たちの経験を客観化し、病理診断を「再現性」、「不偏性」そして「論理性」をするために必要不可欠な分野であり、また重要な目的である、と考えました。

(札幌皮膚科医会会報 2005年第2号 掲載記事より)  
～次号へつづく～

## 第1回加齢制御皮膚医学研究会にて演題発表を致しましたので、発表内容をご紹介致します。

顔の有棘細胞癌(SCC) 安齋眞一、福本隆也、木村鉄宣

露光部特に顔に生じる有棘細胞癌(SCC)は、加齢とともに発生頻度が高まる腫瘍である。その上皮内(in situ)病変は、紫外線暴露により発生する日光角化症と、ヒト乳頭腫ウイルスの関与が疑われてはいるが、その発症要因が十分明らかにされていないBowen病に大別される。この2つの腫瘍はその発生要因が異なるので、発症予防からもその鑑別は重要と考える。まず、この2つの疾患の病理組織学的鑑別点を明らかにする。さらに、顔に生じた進行期のSCCの多数例について、その発生部位や上皮内病変などの臨床病理学的検討を加え、年齢との相関関係を検討し、報告する。

### 今後のスケジュール

2005,9,3-4

セミナー：皮膚病理指導医養成講座 第一部  
会場：北海道大学医学部 第3講堂

2005,9,17

講演：愛媛県皮膚科医会主催 講演会  
会場：松山市

2005,9,23-24 (福本 隆也)

CPC：第56回日本皮膚科学会中部支部  
会場：大阪国際会議場

2005,9,24-25 (安齋 眞一)

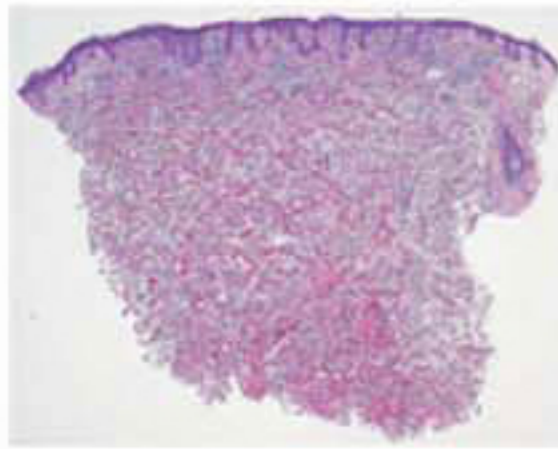
学会発表：第69回日本皮膚科学会東部支部  
会場：盛岡市岩手県民会館

43才、男性

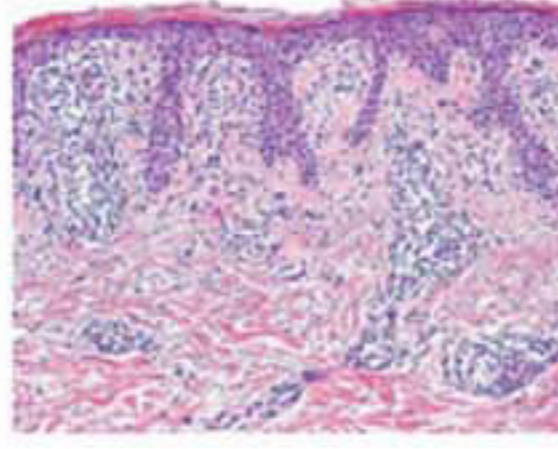
生検部位：前胸部

臨床診断：Lichen planus?

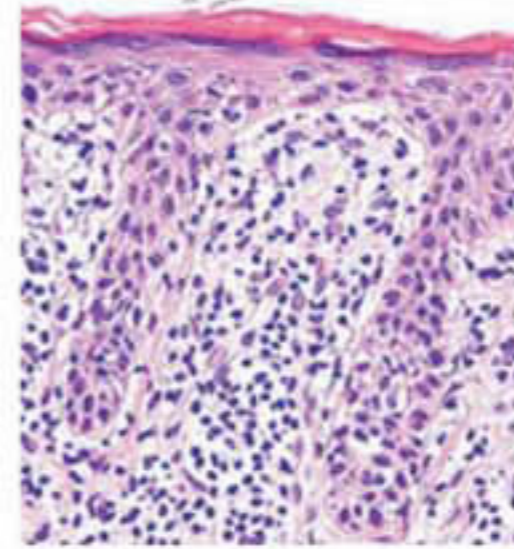
病理診断：Lichen striatus



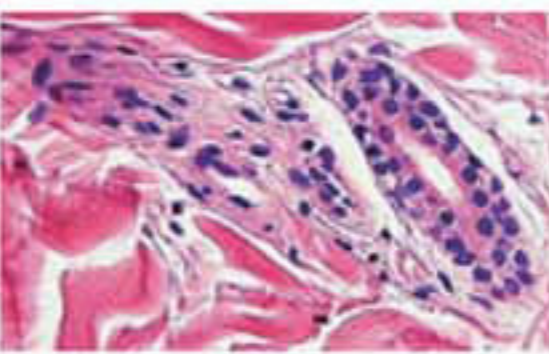
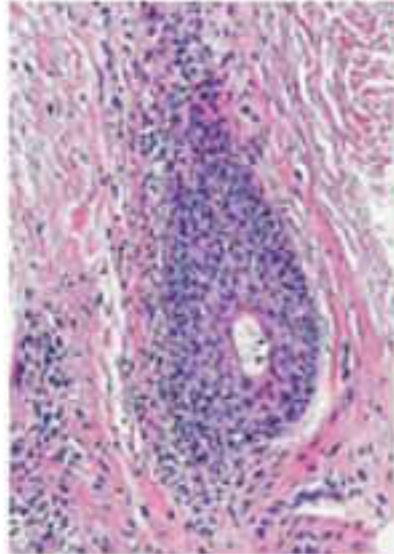
真皮乳頭層に帯状の炎症性細胞浸潤が認められる。表皮は肥厚（表皮稜延長）している



表皮はspongiosisを伴い、規則的に肥厚している。



リンパ球の浸潤とともに多数の組織球が混在している。その部位では真皮-表皮境界部が浸潤した炎症細胞で不明瞭になり空胞変性が見られる。



毛包や汗管周囲にも炎症性細胞浸潤を伴っている。

新しい論文が掲載されました

木村鉄宣

病理組織からみた「シミ」の治療

Visual Dermatology : 4(8) : 847-846, 2005

木村鉄宣

第4回 皮膚病理組織のエッセンシャルズ

1, 皮膚病理組織のエッセンシャルズ ~皮膚科セミナーウム~

日本皮膚科学会雑誌 : 115(8) : 1131-1135, 2005

開催セミナーのご案内 皮膚病理診断ワークショップ&コンセンサスセミナー

皮膚病理診断ワークショップ 皮膚付属器腫瘍の疑問・問題点を解決する 講義形式

日時 2005年10月1日(土) 9時~18時 早期申込割引受付締切-8/31(水)  
 目的 皮膚付属器腫瘍を正確に病理診断するために必要な情報を整理する  
 疾患の歴史的考察、疾患概念、臨床像、そして病理組織像を総合的に検討する  
 方法 各講師がスライドを利用して、問題を提起する。

参加者から問題提起演題を募集します。

皮膚付属器腫瘍の診断の手がかり、診断基準項目、そして鑑別点に関する所見や見解を提起する。  
 皮膚付属器腫瘍の分類を再検討する。 / 皮膚付属器腫瘍の発症機序を検討する。

どのような分野のどのような課題でも結構です。

皮膚病理診断コンセンサスセミナー 皮膚付属器腫瘍の疑問・問題点を解決する 症例検討形式

日時 2005年10月2日(日) 8時~17時 早期申込割引受付締切-9/1(木)  
 目的 皮膚付属器腫瘍を正確に病理診断するために必要な情報を整理する  
 疾患の歴史的考察、疾患概念、臨床像、そして病理組織像を総合的に検討する  
 方法 札幌皮膚病理研究所が用意した、あるいは参加者の持参した病理標本、臨床写真を逐一検討し、参加者のコンセンサスを形成する(多数例の検討を予定しています)。  
 顕微鏡と接続した液晶プロジェクターを利用し、画像をリアルタイムで検討する。

ワークショップでの問題提起をうけて病理標本を検鏡しながら諸課題を検討します。

確定診断をつけた症例はスライドプロジェクターや顕微鏡を利用して参加者に供覧される。  
 セミナー参加者は自由に発言し、討論の内容を豊富にすることを期待される。

検討が必要な症例を持参してください。

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| ワークショップ<br>&<br>コンセンサスセミナー | 検討項目(一部)   |
|                            | ・ Trichoblastoma と Trichoblastic carcinom (BCC)の鑑別   |
|                            | ・ Malignant hidradenoma simplexとBowen's diseaseの鑑別   |
|                            | ・ Mixed tumor of the skinの病理組織学的variant              |
|                            | ・ SebaceomaとSebaceous adenomaとsebaceous carcinomaの鑑別 |

会場 北海道大学医学部 臨床大講堂 定員 50名ずつ

参加費 18,000円 (早期申込割引参加費 : 16,200円)

※同時申込・・・2日間 32,000円 (早期申込割引参加費 : 28,800円)

講師 木村 鉄宣(札幌皮膚病理研究所 所長) 安齋 眞一(札幌皮膚病理研究所 副所長)

ホームページ・E-mail・FAXにてお申込みください

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com Website www.sapporo-dermpath.com